

読者のひろば



読者の皆様からいただいたお便りの中から、ご意見や情報などを紹介します。

5

月3日に久しぶりにばら園へ。入口では入場券を求めずご

い人の列で、入場するのに20分かかりました。ようやく園の中に入ると、ばらの美しさが見せ方が素晴らしいのひと言でした。カメラを向けて何回もシャッターを切りました。このばら園の素晴らしさを日本だけではなく、海外にも是非宣伝してはどうかと考えました。(M・Mさん・男性)

「かのやばら祭り2023春」は4月29日～6月4日の期間で開催され、延べ4万人の来園客でにぎわいました。8ヘクタール3万5,000株のバラが咲き誇る空間で皆さんの「癒し」の時間となったのではないのでしょうか。今後かのやばら園では広報かのやをはじめ、市ホームページやSNS等を通じて情報発信しながら、本市はもとより大隅の観光交流拠点として、市内外を問わず多くの人にご来園いただけるよう努めてまいります。

鹿

屋女子高を卒業して早〇年、年月の早さに恐怖を感じているこの頃です。広報かのやのHot

Newsのコーナーで、女子高の後輩たちの全商検定の合格者を見て、とても懐かしく思いました。検定だらけの毎日は本当に大変でしたが、一緒に過ごした友人たちとは今でも繋がっています！(S・Cさん・女性)

友人と笑い合いながら時には喧嘩して涙して、勉強に運動に遊びに一生懸命だったあの頃。友人との出会いや思い出は生涯の宝物ですよ。成長し大人となった今、大切な宝物を作っている真つ最中の学生たちを(ちよつと羨ましく思いながらも)全力で応援し、守っていききたいものです。本市では、高校生がいる世帯の生活を応援する高校生応援給付金、全ての小・中学生の給食費の半額支援などを新たに制定するなど、全ての世代の子どもたちを切れ目なく、全力でサポートしていきます。

我

が家の庭を業者に依頼して、伐採や枝の切り落としをしてもらいました。切り株も掘り起し、庭がすっきり、見通しもよくなりました。こうなると、人の心も変わり、何か植えてみようかなとなり、自分でもびつくり。以前の庭だとそんなことは全く考えなかつたので、面白いものです。本市に行き、ブルームーンというばら(良い香りがします)とローズマリーを購入して植えました。次は何を植えようかなと思案中ですが、いつまで続くか恐ろしくもあります(笑)。(T・Mさん・女性)

家の大掃除をして、もう二度と汚さない、しっかり片付けようと誓い、花を活けたり絵を飾ってみたりするもしばらくすると元通り…なんてことはよくある話ですが、T・Mさんはきつと大丈夫。かのやばら園のガーデンによると「無理なく楽しむため、強健品種の宿根草がオススメ。背が低く整うエリゲロンや高低差を選べるガウラなど、淡い色で整えてもブルームーンの青が引き立つのではないのでしょうか。」とのこと。かのやばら園には鹿屋の氣候に合う植物とバラを植栽しているエリアがあります。ぜひ参考にお出かけされてはいかがでしょうか。アドバイスが欲しいときは、管理スタッフに気軽にお声掛けください。

フォトネタ!



バジシヨップトツキー農業体験

5月28日、下祓川町の畑で農業体験が行われました。地元農家の教えのもと、子どもたちはジャガイモとインゲンの収穫を楽しみました。

「コロナ禍以来、中止となっていたエアーメモリアルinかのやに行ってきました。次男が航空士として働いているので、ほんの少しですが、その職場の様子を見ることができて、そして、鹿屋での大きなイベントがまた戻って、賑わいを感じることができ、何だかとても嬉しくなりました。(しげのつちさん・女性)」

「エアーメモリアルinかのや」は4年ぶりに開催され、航空ショーには市内外から約1万8,000人にご来場いただきました。抽選による体験搭乗や、P-1哨戒機との綱引きイベントなどが行われ、多くの方々が楽しみ、自衛隊員のカッコよさも知ることができました。コロナ禍もピークを過ぎ、イベントや旅行などが元通りとなってきましたが、うがいや手指の消毒など基本的な対策は忘れることなく、積極的に参加し、楽しんでいきたいですね。